

# 園からの便り ひぐらし



## 秋のレイン棒

爽やかな秋晴れの日、落ち葉に覆われた園外へと出かけた、にじぐみ(1歳児クラス)の子どもたち。この年齢ならではの、子どもたちの姿を追ってみました。

### 見る・聞く

今月の題字の背景写真：みんなで飛び去る飛行機を見送っている姿なのですが、これもこの時期にグッと伸びてくる「共同注視」という育ち。同じものを見ながら言葉を交わしながら：やがて他者と、思いを共有できるようになっていくための、重要なステップなのです。

今年、子どもたちの「音」への関心に着目して保育を組み立ててきた、にじぐみの担任たち。カサカサと風に鳴る葉音に瞬時に気づき、さつと樹木を仰ぎ見た子どもの姿を見て、だからなのだね、と納得しました。

### 握る

ものを握る動作がしっかりとってくるの

りれない」のは、大人も同じかもしれないね。だから子どもは「滑る」のです。

### 渡る

敷石の上、幅の狭い小径、盛り上がった尾根など、特別なルートを探しては辿る：そんなことが面白くなるのもこの時期です。

歩行が安定し、体のバランスが取れて、ぴよんと小さくジャンプができるようになってくると、それを使いこなしてみたくて、たまたまなくなるようです。敷石を飛び移っていく時、自分なりの掛け声を

### 登る・滑る

そこに段差があるから：これが子どもたちが登る理由。良くも悪くも大人サイズの街設計。そこを移動するために乗り越えるべき障壁は、子どもにとっては高く、そして何とかしてそれを越えたいという思いは、それ以上に大きい。

全身全霊を投じて段差に挑んでいく姿を見てみると、バリアフリーとは、果たして子どもにとってよいことなのかを、考えさせられてしまいます。

高さが見えてしまう分、「登れても降



もこのくらいこの時期。この日も、ほぼ全員と言っていいほど、棒を握っている瞬間がありました。そして、その棒で、落ち葉をかき分けたり、土に差し込んで見たり、何かを叩いて音を出してみたりと、棒を「道具」として使い始めていくことが本当によくわかります。

そして反対に、周囲に構わずただそれを振り回す友だちには、それを諷める子までいて：道具として使うことの意味がわかることと一体的に、こうした道徳観というものも、少しずつ育まれていくのだなと感じました。

つぶやいたり、「いち、に、さん」と何と、8まで数えている子もいて驚きました。言葉は、こうした身体感覚と共に刻まれていくことを実感します。

子どもは、今、伸びようとしている能力を、盛んに使おうとすると言われています。なので、個々の発達に応じるためには、子ども自身で選ぶことができ、それに存分に浸れる遊び環境が大事になるのです。

では、そのために必要な大人の能力とは何でしょう。それは、急かさず、先回りせず、待つてあげる力なのかもしれません。まだまだおぼつかない足取りに、少しヒヤヒヤする思いと：戦いながら。

園長 折井誠司

●編集 誠美保育園  
●編集人 折井誠司  
●発行人 折井誠司  
●印刷所 誠美保育園  
●発行所 社会福祉法人 誠美福祉会  
〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
電話 042-675-1551  
ファックス 042-677-5643  
E-mail sebi@nokken.jp  
http://nokken.jp/